

髄膜炎菌は不顕性感染する

(健康保菌者として成立している)

諸外国では保菌率が日本より高い。

健常者の髄膜炎菌保菌率

海外 (ヨーロッパ)	日本 (2000年・咽頭スワブ調査)	日本 (2014年・うがい液調査)
5～30%	～0.4%	～0.84%

田中ら、感染症学雑誌,2005

Takahashi *et al.*, 2016

侵襲性髄膜炎菌感染症の集団発生

- 2011年5月 宮崎・高校寮で起きた集団事例 -

@他県からも入学する野球部のある高校



IASR 34:367-368, 2013.

性別	年齢	職業/クラス/部活動	居住	出身地	発症	症状*	疫学調査上の診断	転院	
1	6	女	心持西成宮	高知県	4/29	発熱、嘔吐、頭痛、 嘔吐、下腹部痛	髄膜炎菌性 髄膜炎	退院	
2	1	5	男	香西村1号	香西村1号 野球部	5/12	発熱、寒戦、 下腹部痛	髄膜炎菌性 髄膜炎	死亡
3	1	5	男	香西村1号	香西村1号 野球部	5/12	発熱、頭痛、 腹痛、嘔吐	髄膜炎菌性 髄膜炎	退院
4	1	5	男	香西村1号	香西村1号 野球部	5/17	発熱、嘔吐、頭痛、 寒戦、嘔吐、 下腹部痛	髄膜炎菌性 髄膜炎	退院
5	1	5	男	香西村1号	香西村1号 野球部	5/10	発熱、嘔吐、頭痛、 腹痛、嘔吐、 頭痛、下腹部痛	髄膜炎菌性 髄膜炎	退院

引用：感染研 希少感染症診断技術研修会

https://www.niid.go.jp/niid/images/plan/kisyo/3_takahashi.pdf

侵襲性髄膜炎菌感染症の検査

ラピッドHN20(日水製薬)を用いた髄膜炎菌の同定



	ブドウ糖	麦芽糖	乳糖	果糖	シヨ糖
淋菌	+	-	-	-	-
髄膜炎菌	+	+	-	-	-
<i>N. lactamica</i>	+	+	+	-	-

引用：感染研 希少感染症診断技術研修会

https://www.niid.go.jp/niid/images/plan/kisyo/3_takahashi.pdf

髄膜炎菌の臨床検査上の問題点

- 同定後、平板を冷蔵庫(室温)で放置(>3日)

- 菌が死滅

- 血清群、遺伝子型が不明(疫学解析が基本的には不可)

- チョコレート寒天で培養した菌を発送

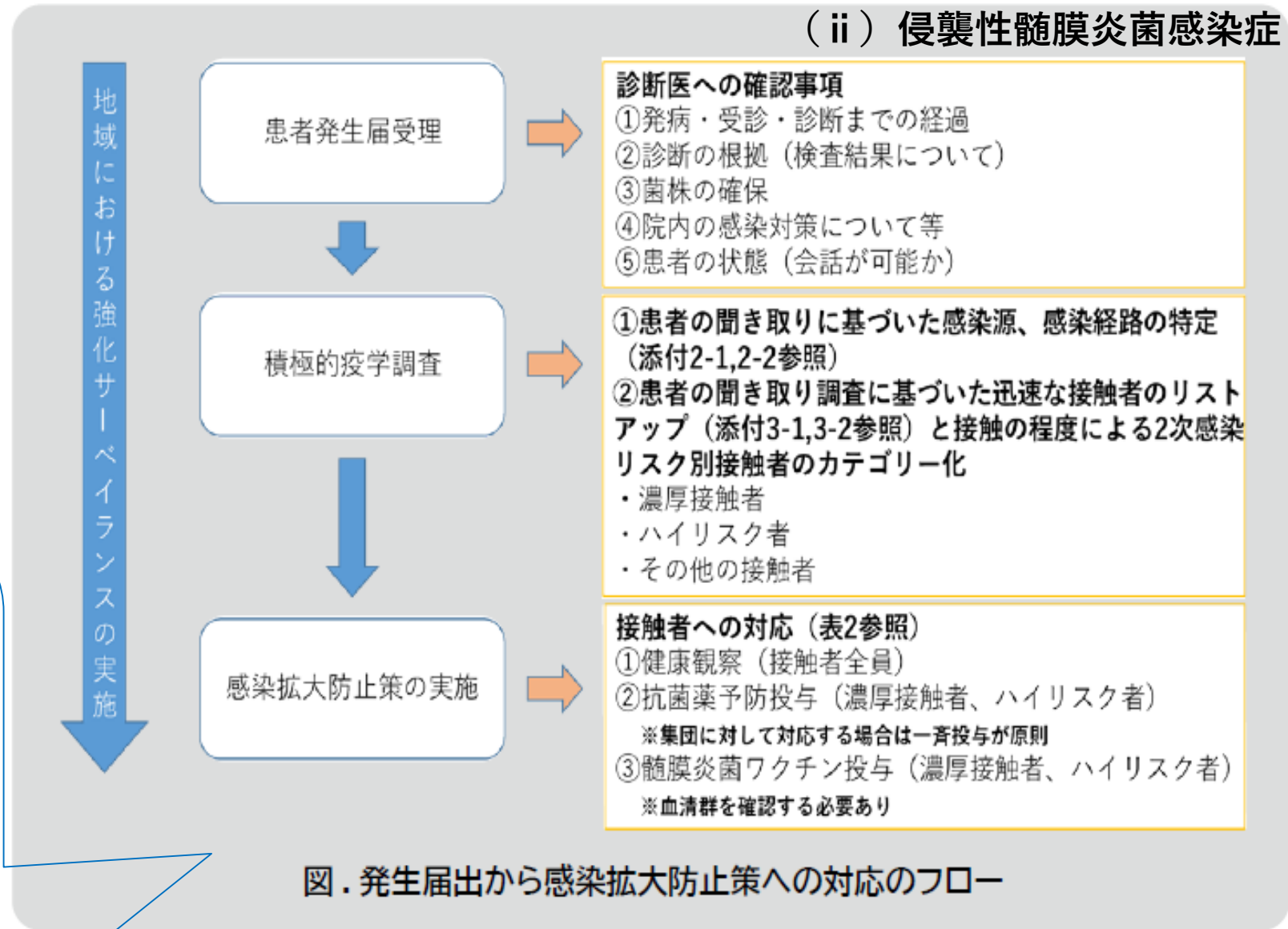
- (初期培養の状態にもよるが) 感染研に届いた時点で菌が死滅

- 病原体(髄膜炎菌)は陸送しかできない(時間がかかる)

- (特に沖縄) 常温輸送では菌が死滅

侵襲性髄膜炎菌感染症の積極的疫学調査 (5類 直ちに届出)

IMD 発生時対応の目的は探知された患者及びその感染源を発端とした感染の拡大防止であり、症状の進行の早さとその重篤度から患者が**1例でも発生したら「アウトブレイク」と捉え、「即対応」が原則となる。**
IMD 患者が発生した場合、患者本人の治療はもちろんのこと、できるだけ速やかに、かつ効率的に**患者情報の収集を実施することにより、濃厚接触者の把握や2次感染予防のための対策（予防投薬や緊急ワクチン接種）の実施対象範囲を決定する必要がある。**



図・発生届出から感染拡大防止策への対応のフロー

侵襲性髄膜炎菌感染症の積極的疫学調査（5類 直ちに届出）

	濃厚接触者	発症リスクが高い者 (ハイリスク者)	その他の接触者
接触の程度 (例) ※他者へ感染させうる 期間＝患者の症状出現 7日前～有効な治療終 了後 24 時間	患者と以下のような接触をした者 ●衣食住を共にするような濃厚 接触をした者 ●患者が幼少児の場合には特に 濃厚な接触でなくても、同じ ユニットにいた者 ●医療従事者で、適切な感染防護具 を使用せずに咽頭分泌物に 直接曝露した者 ●その他：mouth-to-mouth蘇生を 行った者、飛行機で 8 時間以上 患者の隣席だった者等	濃厚接触者には該当しないが 以下のいずれかに該当する接触者 ●補体欠損症 ●エクリズマブ等の免疫抑制剤使用 中等の補体機能低下者 ●無脾症（脾機能不全を含む） ●免疫不全者	濃厚接触者には該当しないが以 下のいずれかに該当する接触者 ●同じ学校や職場だが、患者の唾液 と直接接触していない者 ●濃厚接触者の接触者 ●患者の唾液と直接接触のない 医療従事者 ●8 時間以上のフライトで患者の 隣席ではないが、同じ便に搭乗 した乗客（一部）
健康観察 (最終接触日当日から 20日間)	担当者が毎日連絡するなど、嚴重 な健康観察を推奨	担当者が毎日連絡するなど、嚴重 な健康観察を推奨	各自で健康観察を実施し、症状を 認めた場合はすぐ担当者へ連絡を もらう
抗菌薬予防投与	推奨*	推奨*	不要
緊急ワクチン接種 (起因菌の血清群を考慮)	推奨*	推奨*	推奨

事務連絡
令和5年6月14日

都道府県

検体採取にご協力
をお願いします。

衛生主管部（局） 御中

厚生労働省健康局結核感染症課

成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究について（協力依頼）

標記について、令和4年度から3年間の予定で「厚生労働科学研究費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）」において、成人の侵襲性肺炎球菌感染症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の4疾患に関して、感染症発生动向調査に対応する病原体情報の収集等を目的とした「成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究」（研究代表者：明田幸宏）を実施しております。また本研究の前身である「成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの充実化に資する研究」におきましても、平成28年度から全国の自治体の皆様にご協力いただいていたところです。侵襲性髄膜炎菌感染症については、国内症例数が他疾患に比較して少ないことから、疫学解析に十分な症例収集ができない可能性があります。

侵襲性細菌感染症のまとめ

- 本日は細菌性感染症の中でも重症化しやすい4疾患をご紹介します。最近では、県内で侵襲性髄膜炎菌感染症が発生しており、稀ですが、特徴等お知りおきください。また、積極的疫学調査の実施や検体採取に際して、引き続きのご協力をお願いいたします。
- 本年4月より、小児の五種混合ワクチンの開始及び高齢者肺炎球菌ワクチンの対象者が変更されていますので、改正点にご留意ください。

本日の情報を、日々の診療にお役立ていただければ幸いです。